

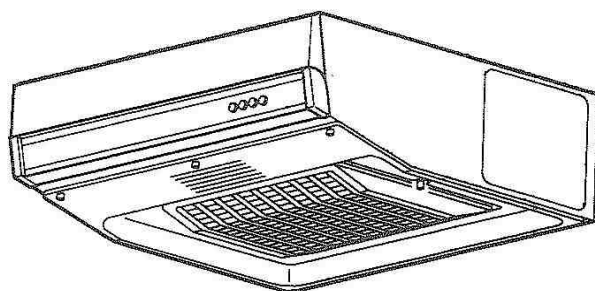
据付説明書

(工事される方へ) 取扱説明書もご覧ください。

HITACHI
Inspire the Next

日立レンジ用フードファン

HF-60G・HF-60S・HF-60GM形



も く じ

	ページ
安全上のご注意	2
寸法図	3
各部のなまえ	3
取り付け前の調査と準備	4
取付上のご注意	4
取り付けかた	5
取り付けの応用例	9
システム部材	12

●この商品の取り付けおよび電気工事は専門工事が必要です。
販売店、専門工事店に依頼をしてください。

●据付工事においては取扱説明書についても良くお読みになり正しく据付工事を行ってください。

安全上のご注意

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けてください。漏電した場合、発火することがあります。



注意

- 交流100V以外では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 天井には取り付けないでください。落下によりけがをする恐れがあります。



- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないでください。(浴室用換気扇をお使いください。) 感電及び故障の原因になります。



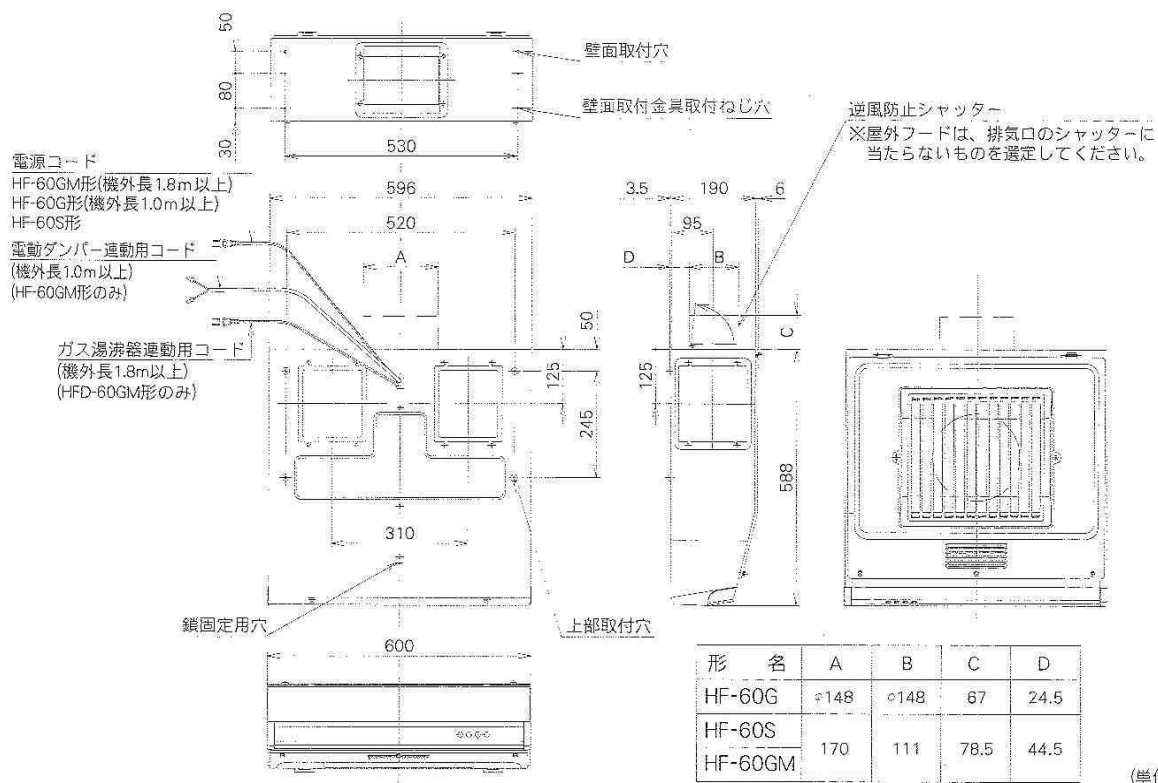
- 本体の取付け工事は十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。落下により、けがをすることがあります。



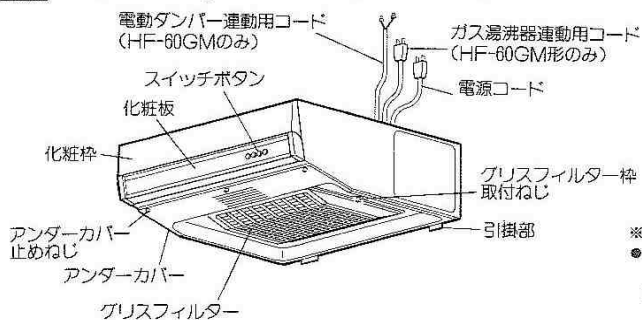
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行ってください。誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。



寸法図



各部のなまえ



※注)
●付属品のパッキンは、説明書と一緒に同梱、その他の付属品は継手と一緒に本体内部に同梱してあります。

名称	略	図	内容	
木ねじ	6本		本体取り付けに使用します。	
パッキン	1本		本体と壁面とのすき間をふさぎます。	
継手	1個 (HF-60G形)		1個 (HF-60S・HF-60GM形)	本体とダクトとの接続に使用します。逆風防止シャッター付。
継手取付金具	2個		継手の取り付けに使用します。	

取り付け前の調査と準備

⚠ 注意

- 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。落下により、けがをすることがあります。



- 取り付け面の強度確認………製品を支える強さが必要です。(製品重量11.5kg)

■板張りの場合

- 板厚が20mm以上の場合は直接板に取り付けてください。
- 板厚が20mm以下の場合は壁に補強板を埋め込み補強板にレンジ用フードファンを取り付けてください。

■コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カーンプラグ等を使用し固定してください。

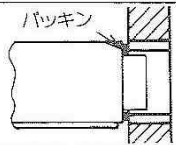
■土壁の場合

- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

●別売部品の準備

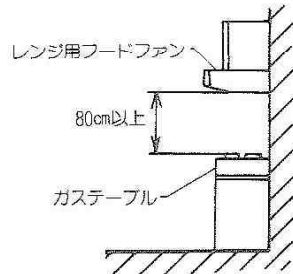
- 排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。(☛12)

取付上のご注意

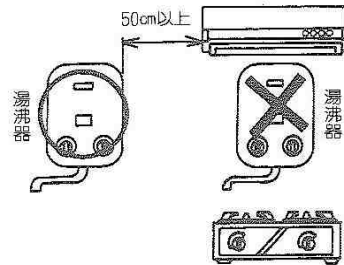
<ul style="list-style-type: none"> ● 排気工事をされる場合建築基準法（同施工法）および消防法等の関連法規に従って施工してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● レンジ用フードファンの取り付けは、建物の金属部（壁内ラス網等）と接触しないように、十分注意して工事してください。なお、本体の壁への埋め込みは、絶対にやめてください。漏電した場合発火することがあります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 屋外フードは、排気口のシャッターに当たらないものを選定してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますのでご使用しないでください。
<ul style="list-style-type: none"> ● ガステーブルの幅はレンジ用フードファンの幅以内のものをご使用ください。排気効率が低下します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けしないでください。火災・故障の原因となります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品取付工事には手袋を着用してください。薄板の切口などでけがをすることがあります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 壁と本体との間は付属のパッキンですき間を防いでください。 	

(☛のあとの数字は主な説明のあるページです。)

- 製品はガステーブルの真上に取り付けてください。なお、この製品の標準取付高さは、80cmに設定してあります。



- レンジ用フードファン下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。



- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

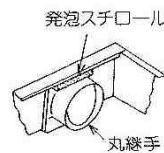


取り付けかた

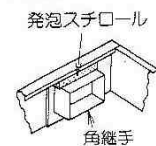
1. 本体の準備

- (1) アンダーカバー止めねじ(3本)をドライバーで外してください。後部の引掛部から外すと、アンダーカバーは本体より取り外せます。
- (2) 継手を固定している発泡スチロールを取り外し、継手を取り出してください。

■HF-60G形の場合



■HF-60S・HF-60GM形の場合



2. 排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けてください。漏電した場合、発火することがあります。



取り付けかた (続き)

⚠ 注意

●天井には取り付けないでください。落下によりけがをする恐れがあります。



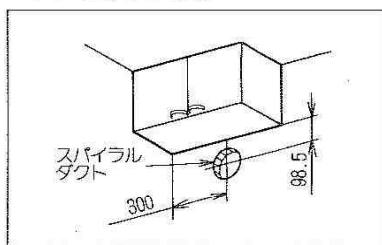
●浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないでください。(浴室用換気扇をお使いください。) 感電及び故障の原因になります。



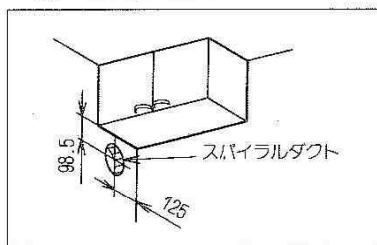
- (1) 下図のように吐き出し口の位置に壁穴を開けます。
- (2) 取付枠または、φ150のステンレスダクト、スパイラルダクトを壁面と同一面に取り付けてください。

■HF-60G形の場合

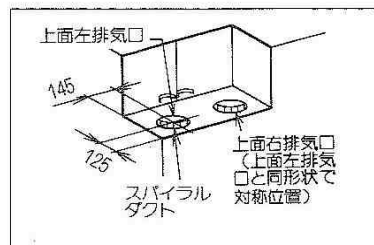
●後面排気の場合



●側面排気の場合

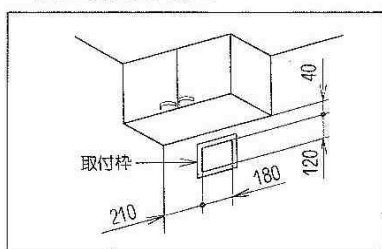


●上面左右排気の場合

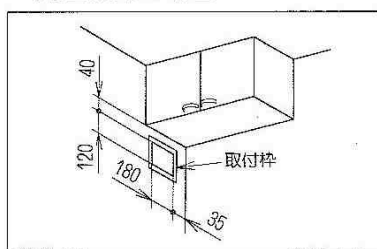


■HF-60S・HF-60GM形の場合 (上面左右排気の場合は別売部品VP-60FMを使用してください)

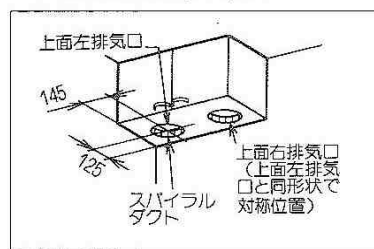
●後面排気の場合



●側面排気の場合



●上面左右排気の場合



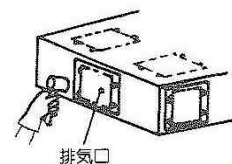
- (3) 本体よりファンを外してください。ファンを押さえファンキャップを時計方向に回して外したあと、ファンを手前に引き、モータ軸から外します。



- (4) 本体の使用する排気口を、小形のハンマーで強くたたき、打ち抜きます。

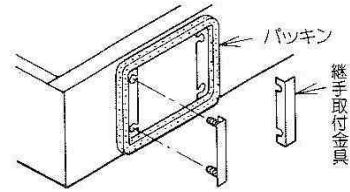
ご注意

排気口を打ち抜く際、他の部品に当たらないように注意してください。



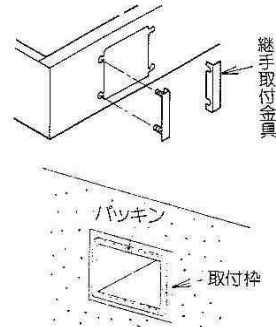
■HF-60G形の場合

- (5) 継手取付金具のボルトを排気穴横の丸穴に外側より差し込み、排気穴の端面をはさみこむように折り曲げて継手取付金具を固定してください。
- (6) 本体の排気口部にパッキン(付属品)を貼り付けてください。



■HF-60S・HF-60GM形の場合

- (5) 継手取付金具のボルトを排気穴横の丸穴に外側より差し込み、排気穴の端面をはさみこむように折り曲げて継手取付金具を固定してください。
- (6) 取付枠にパッキン(付属品)を貼り付けてください。



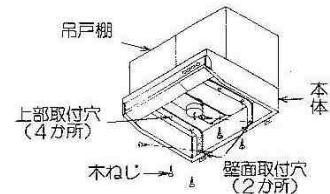
3. 本体の取り付け

⚠ 注意

- 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。落下により、けがをすることがあります。



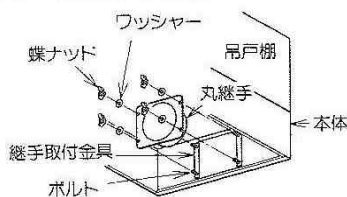
- (1) 本体上部取付穴のシールを4か所はがし、吊戸棚の底面に木ねじ4本で固定してください。
- (2) 本体後面の壁面取付穴(2か所)を木ねじ2本で固定してください。



4. 継手を取り付けてください。

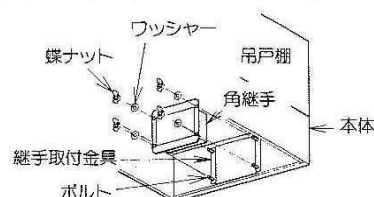
- (1) 継手を本体内側より継手取付金具のボルトに差し込み、ワッシャーと蝶ナットで締めつけてください。

■HF-60G形の場合



ご注意

■HF-60S・HF-60GM形の場合



後面、右側面、左側面の場合、シャッターが閉じる方向で継手を取り付けてください。

取り付けかた (続き)

5. 組み立て

⚠ 注意

- 羽根や部品の取り付けは確実に行ってください。落下により、けがをする恐れがあります。



- (1) ファンを取り付けてください。
ファンを元まで差し込み、ファンキャップを確実に締めつけます。
- (2) アンダーカバーを取り付けてください。
後部の引掛部に差し込み、アンダーカバーを止めねじ(3本)で締めつけてください。

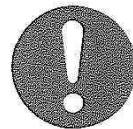
6. 電気配線

⚠ 注意

- 交流100V以外では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行ってください。
誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。



HF-60G・HF-60S形の場合

- (1) コンセントは専用コンセントを使用してください。
- (2) 電源プラグをコンセントに差し込みます。

HF-60GM形の場合

■ ガス湯沸器と連動運転する場合

- このレンジ用フードファンは、市販の換気扇連動スイッチを使用してガス湯沸器と連動運転することができます。

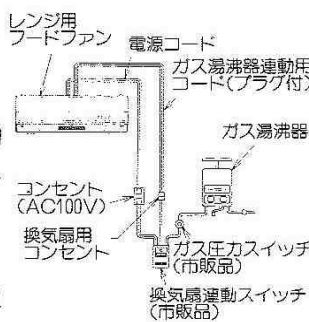
ご注意

- ガス湯沸器は、換気扇連動形とそうでない場合により、換気扇連動スイッチは異なります。
- 工事については、ガス供給会社(ガス会社)にご相談ください。また、配線は電気設備技術や内線規程に従ってください。

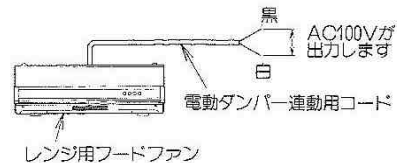
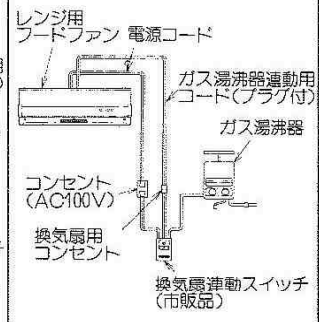
■ 電動ダンパーと連動運転する場合

- このレンジ用フードファンは、運転中、AC100Vを出力できる電動ダンパー連動用コードが設けてあります。
- 電動ダンパーと連動する場合は、電気設備技術基準や内線規程に従って電動ダンパーと接続してください。

● 換気扇連動形でない場合



● 換気扇連動形の場合



ご注意

- ご使用中、リードセン先端の絶縁用コネクターを切断し、取り外してください。

7. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は危険ですから羽根の中に指や物を入れないでください。けがの恐れがあります。



HF-60G・HF-60S形の場合

■ スイッチの操作と運転については取扱説明書 4 をご覧ください。

- (1) スイッチのボタンを押し、**弱****強** 運転およびランプの点灯状態を確認してください。

HF-60GM形の場合

■ スイッチの操作と運転については取扱説明書 4 をご覧ください。

- (1) スイッチのボタンを押し、**弱****強** 運転およびランプの点灯状態を確認してください。
- (2) ガス湯沸器との連動運転を確認してください。
 - スイッチを**切**にして、ガス湯沸器を使用すると「強」で運転し、ガス湯沸器を止めると、レンジ用フードファンも停止するか確認してください。
 - スイッチを**弱**にして運転し、ガス湯沸器を使用すると「強」に切り換わり、ガス湯沸器を止めると元の「弱」にて運転するか確認してください。
- (3) 上記の運転中は電動ダンパーのダンパーが開放し、停止中は電動ダンパーのダンパーが閉じるか確認してください。

取り付けの応用例

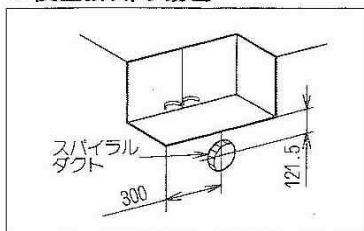
- 別売部品VP-60S形のスライド金具にて取り付けする場合
(下記説明以外は ■ 取り付けかた を参照してください。)

1. 排気口壁穴位置

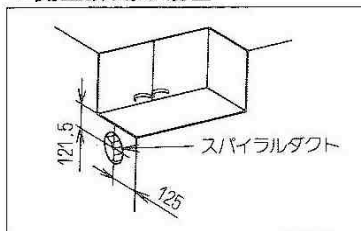
- (1) 下図のように吐き出し口の位置に壁穴を開けます。
- (2) $\phi 150$ のステンレスダクト、スパイラルダクトを壁面と同一面に取り付けてください。
ただし、上面排気の場合は、継手とスパイラルダクトを風漏れ防止のテーピングが出来る様な位置にしてください。

■ HF-60G形の場合

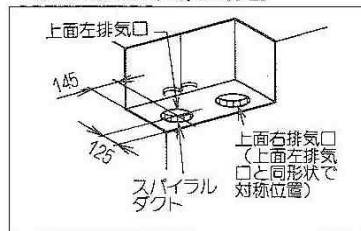
● 後面排気の場合



● 側面排気の場合



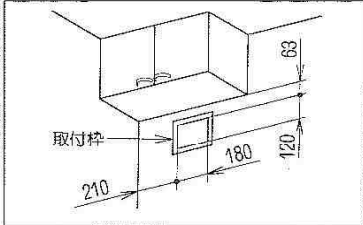
● 上面左右排気の場合



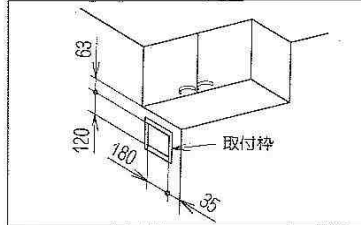
取り付けの応用例 (続き)

■HF-60S・HF-60GM形の場合 (上面左右排気の場合は別売部品VP-60FMを使用してください)

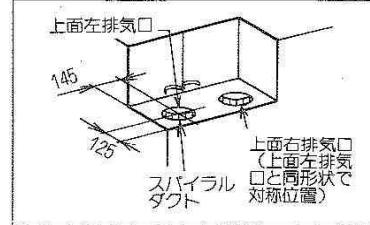
●後面排気の場合



●側面排気の場合

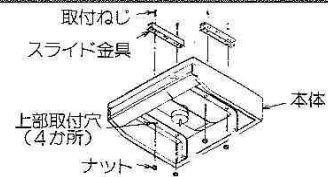


●上面左右排気の場合



2. 本体の取り付け

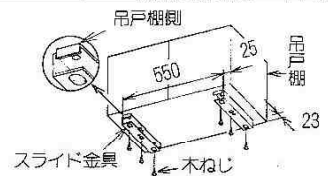
- (1) 本体上部取付穴のシールを4か所はがし、スライド金具(2本)を取付ねじ、ナットで締めつけます。



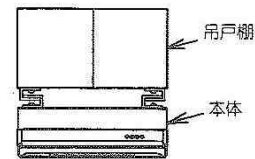
- (2) 吊戸棚にスライド金具(2本)を、木ねじ6本で取り付けてください。

ご注意

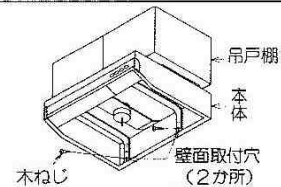
スライド金具を取り付ける時は、方向に注意して取り付けてください。



- (3) 本体を吊戸棚に取り付けたスライド金具にスライドさせて差し込んでください。



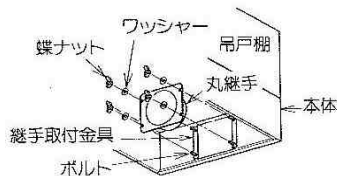
- (4) 本体後面の壁面取付穴(2か所)を木ねじ2本で固定してください。



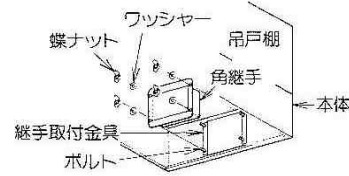
3. 継手を取り付けてください。

- (1) 継手を本体内側より継手取付金具のボルトに差し込み、ワッシャーと蝶ナットで締めつけてください。

■HF-60G形の場合



■HF-60S・HF-60GM形の場合



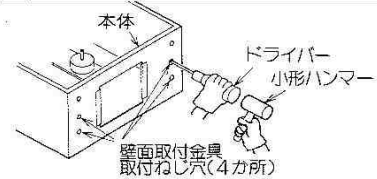
ご注意

後面、右側面、左側面の場合、シャッターが閉じる方向で継手を取り付けてください。

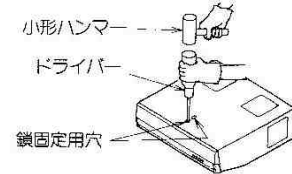
- 別売部品VP-60C形の鎖にて取り付けする場合
(下記説明以外は ■取り付けかた を参照してください。)

1. 本体の取り付け

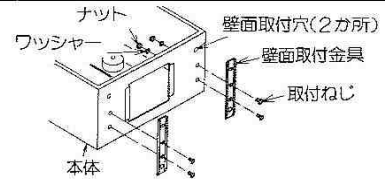
- (1) 本体の壁面取付金具取付ねじ穴(4カ所)を小形のハンマーとドライバーで打ち抜きます。



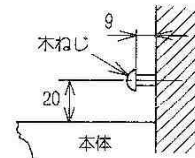
- (2) 本体上面の鎖固定用穴を小形のハンマーとドライバーで打ち抜きます。



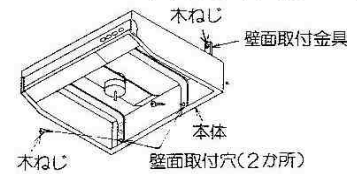
- (3) 本体外部に壁面取付金具を取付ねじ4本で取り付け、本体内部よりワッシャーとナットで固定してください。



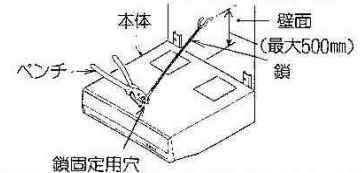
- (4) 本体反止め用ねじをねじ込む
本体反止め位置(左右1カ所)の壁面に、木ねじ(本体に付属)を壁面とのすき間約9mmまで締めつけてください。
なお、ダクトからの寸法は 3 を参照してください。



- (5) 本体反止め用木ねじに本体を引っ掛けたあと、壁面取付穴(2カ所)を木ねじ(本体に付属)2本で固定し、本体反止め用木ねじも締めつけてください。



- (6) 本体上面の鎖固定用穴に鎖を差し込み、ペンチでつぶし、壁面側にて固定してください。

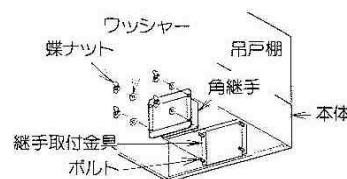
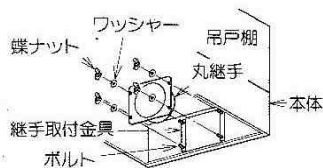


2. 継手を取り付けてください。

- (1) 継手を本体内側より継手取付金具のボルトに差し込み、ワッシャーと蝶ナットで締めつけてください。

■HF-60G形の場合

■HF-60S・HF-60GM形の場合



ご注意

後面、右側面、左側面の場合、シャッターが閉じる方向で継手を取り付けてください。

システム部材

システム部材は、取付方法により必要になります。詳しくはカタログをご覧になり、日立の家電品取扱店にてお求めください。

取扱説明書・据付説明書は必ず使用されるお客様にお渡しください。

日立アプライアンス株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12
電話(03)3502-2111

株式会社 日立産機システム

〒101-0022 東京都千代田区神田練馬町3番地AKSビル
電話(03)4345-6000(代)

日立ライティング株式会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-5-2
電話(03)3255-6255